

# 歳出予算の抑制をはかれ

山田町長／原則として補正予算は組まない

**中津** 町財政が逼迫している中では、

町民に有効で、かつ、最少の経費で最大の効果が上がる予算編成が望まれます。

行政執行の中で、補正予算を組まなければならぬ状況が出てくると思われますが、財政調整基金（町の貯金）等も年々減少している中で、補正予算の主な財源は基金の取り崩し以外はないのですから、慎重な補正予算のあり方を考えるべきではないですか。

**町長** ご指摘のとおり、厳しい財政状況の中、町債（借金）や財政調整基金等からの繰り入れにより、予算編成を行っています

が、財政調整基金も少なくなってきたことから、補正予算の財源確保には困難が予想されます。したがって、緊急性のあるものを除き、原則として補正は行わない方針です。



中津 伸一 議員

**中津** 電源交付金は、主にハード面の整備にのみ適用されるものです。

今後、これを起債（借金）の返済に充てて公債費（借金の返済）を

削減するとか、職員等の人件費や物件費にも使用できるように、その実現に向け、さらに力を入れて活動していただけないか。

**町長** 電源3法交付金は、電気の安定供給確保のために、電源立地地域の住民福祉の向上と電源立地の円滑化をはかるため、制度発足から30年近く経ち、環境がある程度整った今日においては、交付金制度は立地地域特有の、しかも独自の地域振興をはかる制度であるべきと考えます。

これまでも、機会あるごとに国および関係機関等に要望していますが、制度改革に向けて、今後さらに電源立地市町村と一体となつて、粘り強く要望活動を展開していきます。

## 電源交付金の用途拡大を訴えよ

山田町長／制度改革を粘り強く要望していく



広野火力6号機建設現場視察

## 公債費比率の今後の推移はどうか

山田町長／歳出全般にわたる経費節減に努める

**遠藤** 基金（貯金）が減少して公債費比率（借金返済率）が増加の一途をたどり、

町民1人当たりの債務（借入金）は膨大な額になっていきます。過去と今後5年間の公債費比率の推移はどのようになっていきますか。起債（借金）を起さず、財政の健全化をはかるべきではないですか。

**町長** 実質公債費比率の推移については、

平成17年度（13.4%）  
平成18年度（12.6%）  
平成19年度（12.0%）  
平成20年度（13.9%）  
であり、今後は、平成21年度（15.5%）  
平成22年度（16.6%）  
平成23年度（16.7%）  
平成24年度（16.5%）  
平成25年度（16.0%）  
と見込んでいます。

また、財政の健全化については、歳入に見合った歳出規模を定める収支均衡型の財政運営への転換をはかることが課題であることから、事務・事業の見直しを行い、歳出全般にわたる経費節減に努めていきます。

## 専門職の臨時職員を正職員にできないか

山田町長／待遇面での改善を検討したい

**遠藤** 嘱託・臨時職員の雇用が常態化していますが、一定の資格を有する専門職（幼稚園教諭・保育士・児童厚生員）については、正職員として対処すべきではないですか。

町長 当町の厳しい財政状況や定員管理計画等を踏まえ、正規職員の増員は困難な状況です。しかし、待遇面の改善は必要であると思えますので、郡内町村の状況や他の職種とのバランス等を考慮し、今後検討していきます。

## 町の債務（借入金）残高はいかほどか

山田町長／総額およそ50億1600万円

**遠藤** 地方債は町財政の都合により据え置き期間および償還期間を短縮し、もしくは繰上げ償還、または低利に借り換えることができるかとされています。

現在の債務（借入金）残高はいかほどですか。現在のような低金利

時代においては、高利の分を繰上げ償還し、将来の財政負担を軽減すべきではないですか。

**町長** 平成21年度末の残高は、総額およそ50億1600万円です。繰り上げ償還は、金

## 小滝平浄水場の維持管理に努めよ

山田町長／改修年次計画を策定して検討する

**遠藤** 小滝平浄水場は、稼働後約40年が経過し老朽化が進んでいます。改修費と改修年次、ならびに立地町の負担はどうなっているのですか。

**町長** 施設の修繕・補修状況や設備の老朽度等を慎重に見極めながら具体的な改修年次計画を策定し、双葉地方水道企業団と検討・協議を進めていきます。



遠藤 智 議員